

010104パン、菓子製造業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	2	22 ～ 24	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	500 ～ 999
2022	2	22 ～ 24	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	500 ～ 999
2022	2	22 ～ 24	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	500 ～ 999
		22	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を			500

2022	2	～ 24	行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	～ 999
2022	2	22 ～ 24	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	500 ～ 999
2022	2	22 ～ 24	米菓製造棟において、焼き工程付近の火災警報器が作動したため、当直責任者が現場を確認したところ、釜付近から炎が上がっていることを確認した。工場内には38人が作業に従事していたが、このうち、清掃作業を行っていた4人と、もち生地製造作業を行っていた2人、計6人が逃げ遅れて死亡し、避難の際に煙を吸い込んで気道熱傷により1人が病院で手当てを受けた。	341	16	500 ～ 999
2022	10	10 ～ 12	被災者は2階資材置き場にある包装紙等を荷物用エレベーター（搬器をチェーンホイストで吊ったもの。）に載せて1階に下ろそうとしたところ、搬器に付いた扉（観音開き）の片側が2階床に引っ掛かった。それにより搬器は下がらず、搬器を吊っているチェーンが弛んだ。被災者は引っ掛かっている扉を木槌で叩いて外したところ、チェーンが緩んでいた分、搬器が下がり、左半身を搬器と2階床との間に挟まれて死亡した。	214	7	30～ 49
2022	12	12 ～ 14	被災者は一人で用具等を洗浄する洗い場にて、上水道の改修作業を行っていた。午後の作業開始後間もなく、災害発生場所の隣の部屋で菓子製造を行っていた労働者が「ドスン」という音を聞いたため確認に向かったところ被災者が倒れていた。被災者の傍には高さ2.28mの高台及び閉じた状態で高台に寄りかかるように設置されていた脚立があった。当初命に別状はないとされていたが、急変し死亡したものの。	413	1	50～ 99

2021	3	10 ～ 12	第3工場にて、被災者が包装機の原料投入用バケツトに原料を入れ、バケツトの上昇ボタンを押し、その後、バケツトが上昇している途中に被災者がバケツトの蓋を開け、バケツトの中を覗き込んだため、上昇途中にある梁とバケツトの間に首から胸を挟まれた。	165	7	100 ～ 299
2021	5	10 ～ 12	被災者がパンの配送のため会社所有のトラックを運転中、対向車線にはみ出し、対向車線側の電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2020	10	16 ～ 18	プラスチックケース（番重）洗浄ラインにおいて、積み重ねた番重をエアシリンダーにより次工程へ押し出す装置で不具合が発生し、ラインが停止した。そのため、被災者が装置の内部に入って不具合を解消する作業をしていたところ、エアシリンダーが作動し、押し出された番重と装置内壁にはさまれたもの。救急搬送され入院加療中であったが、後日死亡した。	169	7	300 ～ 499
2020	12	22 ～ 24	作業場から被災者所属事業場までの帰路を乗用車で移動中、無灯火で停車していた大型トレーラーに激突し、後部座席に乗っていた被災者が死亡したものの。	231	17	30～ 49
2019	1	6 ～ 8	出社した他の従業員が駐車場で倒れている被災者を発見したものの。救急搬送したものの、同日正午ごろ、くも膜下出血により死亡が確認された。	921	90	50～ 99
2019	1	2 ～ 4	工場内の床に置かれた鉄製のペーパータオルホルダーの脚部に足をひっかけて転倒し、左ひざと右肩を骨折した。その後、入院中に骨折に伴う血栓症を発症し、12日後に死亡した。	379	2	1000 ～ 9999
2019	5	6 ～ 8	パンを焼き上げる機械の清掃作業中、その機械の扉の安全装置を切りにした状態で、身体を機械の中に入れて金属製のトレーを清掃していたところ、別の作業者が機械を稼働させたため、動き出した機械に頭部をはさまれた。	165	7	300 ～ 499
2019	8	14 ～	事業場工場内において、被災者の「機械を止めてくれ」という声を聞き、工場内で作業をしていた他の労働者が駆け寄ると、棒状に成形された飴を材料供給ベルトから球状に切断するローラーに落とすための回転する羽	165	7	10～

		16	に、被災者の上衣のポケットが巻き込まれ、首が絞められた状態となっていた。その後救急搬送されたものの意識が戻らず、後日死亡したもの。			29
2017	2	10 ～ 11	被災者は、配達先から事業場に戻るためワゴン車を運転していたところ、ワゴン車がスリップして対向車線に侵入し、対向車線を走っていたダンプカーに衝突した。事故当時、道路上は圧雪アイスバーン状態であった。なお、ダンptrトラックの運転手は手を怪我した。	231	17	10～ 29
2017	3	8 ～ 9	ガスオーブン操作者が、焼き菓子製造に使うガスオーブンを温めるためにスイッチを入れたが点火せず、ガス臭かったので換気をし、再度ガスオーブンのスイッチを入れたところ、当該ガスオーブンが爆発し、当該ガスオーブンの正面にいた労働者が爆発に巻き込まれて死亡した。	341	14	1～9
2017	3	16 ～ 17	午後6時ごろ、事業所のパン製造ラインで、作業中であった同社作業員が、プラスチック製パレットを積み重ねた上面と金属製ロボットアームの間に頭部を挟まれているのを別の社員がを見つけ、119番した。労働者は病院に運ばれたが、間もなく死亡した。	167	7	300 ～ 499
2016	11	15 ～ 16	工場3階のカットパンの製造ラインのうち、当該パンをオーブンで加熱した後の冷却室に設置された上り傾斜したベルトコンベアの上側のプーリー箇所の清掃作業において、被災者は頭部、右腕、右肩、胸部箇所を、当該プーリーとベルトとの間に巻き込まれ即死した。	224	7	100 ～ 299
2015	11	11 ～ 12	被災者と同僚は、小麦粉用サイロの外側をデッキブラシ等で清掃する作業を行っていた。同僚はサイロの頂上部分の掃除を行い、被災者がサイロ中段部分の清掃を行っていた。その時、被災者が高さ約5メートルの位置から地面に墜落した。（被災者はヘルメット、安全帯未着用で作業を行っていた。）	418	1	1000 ～ 9999
2015	7	9 ～ 10	鋼製搬器を電動チェーンブロックで吊り下げ、昇降路内を上下して荷を運搬する装置を使用し、製品用容器を作業場2階に運搬する作業において、搬器を1階に降ろす操作をしたものの搬器が下がって来なかったため、状況の確認に作業場2階に上がった被災者が、2階床と搬器に挟まれ死亡し	214	7	1～9

			たもの。当該装置の建物側出し入れ口の扉にはインタロック有り、扉ロックなし。搬器出し入れ口には、下1／3に扉有、ロック装置等なし。			
2015	8	17 ～ 18	平成27年8月5日、17時15分頃、製菓店のあめ製造工場内において、被災労働者が機械を使ってあめの塊（重さ約25kg）に香料を練り込む作業を行っていたとき、当該機械の上下動するアームとあめを乗せたテーブルとの間に頭部を挟まれて脳挫傷で死亡したものである。	169	7	10～ 29
2015	8	7 ～ 8	2階倉庫より、ダンボール箱（商品梱包用化粧箱240個入、重さ7.4kg）を1階に下ろすため、箱を抱えて階段を降りていたところ、足を踏み外して転落し、1階コンクリート土間に頭部をぶつけたもの。救急搬送され入院加療していたが、8月19日午後8時に死亡した。	413	1	10～ 29
2015	5	5 ～ 6	被災者が工場2階において製造したパンが入れられたラックを荷物用エレベーターを使用し1階に移動させようとしたところ、当該エレベーターの2階昇降路開口部から4.07m下の1階に墜落したもの。災害発生後から意識不明状態が続き、平成27年5月22日14：00に死亡。	214	1	30～ 49
2014	2	6 ～ 7	被災者は、事業場から徒歩で道路の路肩を通り、製品を事業場の駐車場に運搬した後、同じ道路を通り、事業場まで戻ろうと歩いていたところ、後方から走行してきた自動車にはねられ、頸椎損傷で死亡した。	231	17	100 ～ 299
2014	5	9 ～ 10	階段踊り場付近をモップ掛け清掃中、同僚が通行しようと押し開いた扉に激突され、反動で階段を2mほど転落し、頭を強打した。	418	1	50～ 99
2013	7	17 ～ 18	短時間勤務を行う被災者は、屋内で他の労働者3名と温水が溜まっている貯水槽内に入れた和菓子のコンテナを手で洗浄する作業を実施していた際、突然うずくまり、意識不明となった。救急搬送されたものの、熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2013	8	14 ～ 15	工場の菓子保管倉庫内において、被災者を含め6名の労働者で菓子の袋詰め及びダンボール梱包の作業を行っていた。昼食休憩後に作業を開始した際、被災者が気分が悪いと、熱中症の症状を訴えたことから、同僚が食堂（休憩場所）で休憩するように促し、被災者は作業場を出たが、ほどなく	715	11	50～ 99

			駐車場に停めてあった自家用車の前で倒れているのが発見された。			
2013	6	10 ～ 11	設備機械の保全業務に従事する被災者が、工場敷地内の送粉室前（屋外）において、建屋前の車止めの上に背中の一部をのせる格好で仰向けで倒れているところを発見された。	419	2	1001 ～ 9999
2012	8	21 ～ 22	菓子パン等を製造する燃成室内オーブン出口付近でパンの焼き具合などの監視中に倒れ、救急搬送先の病院で死亡した。	715	11	300 ～
2011	11	10 ～ 11	工場内への雨漏りに対処するため、はしごを使って被災者と同僚労働者の2名で工場の屋根に昇り状態を確認した後、降りるためにはしごに乗り移る際8. 2 m下のコンクリート路面に墜落したものの。	371	1	50～ 99
2010	12	11 ～ 12	研修センター内の斜面の草刈り作業を刈り込み鋏を用いて行っていたところ、足を滑らせ高さ2. 3 mの斜面を転落した。	711	1	100 ～ 299
2010	7	19 ～ 20	エンジントラブルにより、片側4車線の左端登坂車線に停車していた観光バス（乗客34人、乗員3人）に、後方から走行してきたトラック（2 t）が追突し、トラックの運転手が全身を強打し死亡したものの。トラックは、自社の製品（和菓子等）の配送を終えて、帰社途中であった。	221	17	30～ 49
2010	5	11 ～ 12	製品の仕分け作業中に転倒し、頭部を打って死亡したものの。	416	2	300 ～ 499
2010	4	13 ～ 14	被災者は、あんこを製造する釜の清掃作業を1人で行っていた。釜内部をホースを用いて水で羽根などに付いたあんこの残留物を取り除こうとして、釜内の攪拌用羽根が回っている状態で作業を行っていて、羽根に巻き込まれた。約2ヶ月後に入院していた病院で死亡した。	162	7	50～ 99
2009	2	13 ～	被災者は荷物用エレベーターでダンボール15箱を2階から1階に降ろそうとしていた。その際に2階の乗り場から墜落して、搬器と昇降路の間にはさまれた。発見時、2階の乗り場ドアは開いた状態でダンボールを乗せた	214	1	100 ～

		14	ハンドリフトが乗り場ドアに引っかかった状態で搬器上にダンボール2箱が落ちていた。搬器は2階乗り場から4.15m下の位置で停止していた。エレベーターは間口1700mm、奥行1700mm、高さ1800mmであった。			299
2009	12	13 ~ 14	出荷口ホームにおいて、最大荷重1tフォークリフト（リーチタイプ）を使用し、パレットで2段積みされた荷のうち、上部の1パレットを降ろすため、フォークに積んで後進したところ、そのまま出荷口ホームからフォークリフトとともに落下し、投げ出された被災者は落下したフォークリフトのヘッドガードと路面にはさまれた。	222	1	300 ~ 499
2008	7	16 ~ 17	被災者はパン生地ミキサーの掃除作業を単独で行っていた。掃除作業は、ミキサーのパン生地を投入するドラムに水を入れて攪拌した後、機械を停止させタワシを用いて手作業によりドラム内の汚れを落とす作業である。掃除作業を開始して数分後にドラムとミキサーのフレームの間にはさまれている被災者を同僚が発見した。なお、ドラムの回転スイッチは埋頭型で、一度押下すると停止スイッチを押さない限り停止しない。	165	7	10~ 29
2006	12	16 ~ 17	被災者は製造作業終了後、係長と練餡ラインニーダー（練釜（直径80cm、高さ約154cm））の清掃作業を行っていた。係長は地上で練釜の外側についた餡をとっており、被災者はステージ上（高さ約80cm）で練釜の内部をみていた。練釜の内部には水が約15cm入っており攪拌羽根が回転していたが、被災者が練釜内部に転落して攪拌羽根に巻き込まれた。	165	7	30~ 49
2006	3	5 ~ 6	被災者はパン製品を被災場所近くのコンビニエンスストアへ納入のため、路上に3トントラックを停車し、トラックの荷台後部から製品を取り出す作業を行っていた。そこへ、交差点西側から左折したRV車が激突した。	231	17	1000 ~ 9999
2005	5	1 ~ 2	社用車で走行中、トンネルを出たところで対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	300 ~ 499
2005	6	4 ~	自動車で行中、片側1車線の緩やかなカーブを曲がりきれず、そのまま	231	17	1~9

		5	道路から15m離れた民家の納屋に突っ込んだ。			
2005	4	8 ～ 9	練り機の清掃を行っていたところ、中の羽根が動いていたため、挟まれた。	165	7	50～ 99
2005	7	16 ～ 17	熱風排風機のフィルターのつまり具合を確認しようと屋根にはしごをかけ、片足をかけた時にバランスを崩し、はしごとともに墜落した。	371	1	100 ～ 299
2005	6	15 ～ 16	食品材料をを食料品加工用機械に入れて混練し容器に移し替えた後、機械の内部に付着した材料をヘラでかき落していた時に、機械が作動し、回転した軸や羽根に巻き込まれた。	165	7	10～ 29
2005	1	5 ～ 6	県道の左端にトラックを駐車し、被災者が荷下ろし作業をしていたところ、別のトラックに追突された。	221	17	1000 ～ 9999
2005	1	1 ～ 2	垂直スラットコンベヤーに荷が挟まり停止状態となっていたため、被災者は当該コンベヤーを逆転させ挟まっていた荷を除去し、その後、コンベヤー内部に上半身を入れたところ、突然コンベヤーが動き出し、コンベヤー内柵とパレットとの間に挟まれた。	224	7	300 ～ 499
2004	8	14 ～ 15	工場の商品搬入口に保冷車をバックで停めて、店舗から運んできた箱を降ろした後、工場前の道路で保冷車の下敷きになっているところを発見された。	221	7	10～ 29
2004	8	9 ～ 10	製菓作業中に一酸化炭素中毒により倒れた。	165	12	1～9
2004	2	7 ～ 8	作業場内において、生地製造工程の原材料混合機のバッチ内部の清掃作業中、突然、停止していたバッチ内部の攪拌部が起動し、攪拌棒に巻き込まれた。	162	7	10～ 29
			飴製造の自動ラインで鍋に香料、酸味料等を投入したり、飴がラインの中			

2004	1	10 ～ 11	にくっついたりして残ることのないように、ときどき油をかけたリヘラでこすったりする作業に従事していたところ、飴を鍋から次の工程であるニーダー（飴をこねながら冷やす機械）に進めるためのプッシャーとニーダーのフレームとの間に挟まれた。	165	7	50～ 99
2004	10	15 ～ 16	県道を軽トラックで走行中、対向車線に飛び出し、対向車線を走行中の大型トラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2004	10	4 ～ 5	パン工場で操業準備作業を行っていたところ、足を滑らせて転倒した。	417	2	30～ 49
2004	4	17 ～ 18	高速自動車道を走行中、ガードレールに激突した。	231	17	1000 ～ 9999
2003	12	10 ～ 11	バイクで和菓子を配達中、前方不注意により交差点で大型トラックと衝突した。	231	17	1～9
2003	12	8 ～ 9	ミキサーを用いた菓子パン生地の本こね作業中に、生地をミキサーに送入するリフト部分の生地ボックスホルダーとミキサー本体部分のホッパーとの間に頭部をはさまれた。	165	7	100 ～ 299
2003	11	9 ～ 10	早朝パート（午前5時から9時）を終え、傘をさして駐車場の自分の車へ向かうため、工場敷地内の通路を歩行中に、バックで走行してきた配達用の3tトラックにひかれた。	221	7	300 ～ 499
2003	7	10 ～ 11	パン工場で、生地発酵室内のチェーンコンベヤに設置されたステンレス製プレートの調整作業中に、順次降下してくるプレートと架台との間にはさまれた。	165	7	30～ 49
2003	4	6 ～	荷物用エレベーターの下降スイッチを押したところ、積んでいた台車が荷が振動で動いたのでエレベーター搬器内に入って修正して出ようとしたと	214	7	100 ～

		7	きに、下降していたエレベーター搬器の上部と床との間に腹部をはさまれた。			299
2003	3	6 ～ 7	ワゴン車で国道を走行中、下り坂の左カーブでセンターラインを超えたため、対向車線のコンクリートミキサー車と衝突した。	239	17	50～ 99
2003	2	10 ～ 11	工場内排水処理場で、沈殿槽全体に広がった泡を網を使ってすくい取るため休日出勤していた守衛が、沈殿槽の底部で発見された。	418	10	300 ～ 499
2002	9	13 ～ 14	菓子製造工場2階の廃ダンボール搬出用扉の前で廃棄ダンボールの荷造り作業中、50cmほど空いていた扉から約3m下のアスファルト道路に転落し頭頂部を強打した。	418	1	10～ 29
2002	8	23 ～ 24	食パン焼成工程前のパンケースの蓋かぶせ作業を行うリッターで、蓋をつかむスライド部分とパンケースの間に身体を挟まれた。	165	7	300 ～ 499
2002	5	15 ～ 16	あられ選別台から計量器供給ホッパーにあられを投入しホッパーからこぼれたあられを取り除いていたときに、ホッパーのバケットが下降してきてバケットと計量器供給ホッパーの架台との間に挟まれた。	219	7	50～ 99
2002	5	17 ～ 18	菓子製造の仕事を終えワゴン車に5名が同乗しアパートに帰宅途中、市道交差点において軽トラックと衝突し運転手が死亡した。（被災者6名は、すべて日系ブラジル人）	231	17	50～ 99
2001	8	16 ～ 17	カステラ製造の洗い場で、カステラ製造に使用する枠(質量1150g)の枠洗い作業を終了したのち4階の食堂で10分ほど冷水を飲みながら休憩し更衣のため3階の更衣室に向かう途中の階段で急に苦しみだしたため、近くに居合わせた同僚4人で病院に移送したが死亡した。	715	11	100 ～ 299
2001	12	18 ～	正月用の鏡餅製造の段取りをするため、工場4階の倉庫に保管していたプラスチック製の鏡餅の型を簡易リフトで1階作業場に降ろしていたところ、リフトが途中で停止したためリフトの1階積卸口から昇降路内にパイ	214	4	10～ 29

		19	プ椅子を持ち込んでその上に乗り点検していたときに搬器が落下してきて挟まれた。			
2001	8	8 ～ 9	敷地内の駐車場から配達に出るため軽ワゴン車のドアを開け車外からエンジンをかけたところ、ギヤがローに入った状態であったため、車が急発進し隣に並んで駐車してあった別の軽ワゴン車とドアとの間に挟まれた。	231	7	30～ 49
2001	5	8 ～ 9	軽トラックに商品を積載し国道の側道を走行中、右カーブで曲がりきれずに道路脇の電信柱に激突した。	221	17	30～ 49
2001	1	14 ～ 15	チョコレートを溶解するための攪拌装置付きタンクの上部蓋(直径40cm)を開放して原料用チョコレートをタンク内へ投入しているときにタンク内に原料用チョコレート空ビニール袋が落ちたため、取り除こうとしてタンク内に上半身を入れて覗き込んでいたところ回転してきた攪拌用の羽根に巻き込まれ、タンクの上部蓋との間にはさまれた。	162	7	30～ 49
2000	2	14 ～ 15	麺製造工場の入口付近の中2階の配電BOXからの漏電が原因と推定される出火により工場が全焼する火災が発生し、製麺ラインで作業していた者が逃げ遅れて一酸化炭素中毒となった。	514	12	300 ～
2000	6	13 ～ 14	工場内のエレベーターを用いてパン箱運搬用台車(重量5.5kg)4台を2階から1階へ運搬中に、1階エレベーター昇降路内において搬器の下敷きになった。	214	4	30～ 49
2000	11	4 ～ 5	ルート配送トラック(3tコンパネ車)で国道を走行中、交差点通過の際に進入してきた11t大型特貨自動車と接触して車外に投げ出された。	221	17	50～ 99
2000	2	13 ～ 14	工場2階の食堂から1階作業場に降る階段の直下で倒れていて脳挫傷により死亡した。	413	1	10～ 29
2000	2	11 ～	セールスのためワンボックス車で走行中、青信号で交差点を直進していたところ対向車線より右折しようとした10tトラックに正面衝突した。	231	17	300 ～

		12						499
2000	12	0 ～ 1	得意先の巡回のため貨物自動車で国道を走行中、対向車線をはみ出して対向のクレーン車と正面衝突した。	221	17			30～ 49
1999	10	11 ～ 12	パン配送の帰りに軽ワンボックス車で環状線を直進して横切ろうとしたところ、環状線を直進してきた車と衝突した。	221	17			10～ 29
1999	8	9 ～ 10	菓子製造で使用する油を入れるコンテナ(129×100×105cm)を4段に積重ねる作業で、4段目のコンテナをフォークリフトで吊っている時にバランスを崩したため、フォークリフトが左側に横転し、その運転者が下敷きになった。	222	2			10～ 29
1999	6	14 ～ 15	早朝追突事故に遭った菓子パン配送用トラックから別のトラックに荷を移すため、トラックの後部をドッキングさせたが荷台に上がり降りするステップが曲がっていて作業性が悪かったので、トラックのステップ同志を擦りあわせるため荷台上で誘導していたときに、トラックの荷枠に頭部を挟まれた。	221	7			1000 ～ 9999
1999	5	14 ～ 15	営業、商品配達で国道を走行中、走行車線をはみ出して塀とそこに置いてあった廃車に激突した。	231	17			10～ 29
1999	5	7 ～ 8	仕込み・調理の資材準備のため屋外の冷凍庫に原料の「むきえび」を出しに行き、材料を取り出して冷凍庫の扉を閉めようとしたときに、突風で扉があおられて扉に勢いよく押し戻され、隣の冷凍庫で頭部を打った。	418	6			300 ～ 499
1999	3	15 ～ 16	ボール盤状の攪拌設備を設けた餡製造用の機械を使って晒し餡と砂糖等を入れ餡を作っていたときに、攪拌棒取り付け部の止め金に上着の首部分を巻込まれ、巻き込まれた上着に首を絞められた。	165	7			30～ 49

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。